

2018年5月11日



“光”ひろがる。ひびきあう。

2017年度（第19期）決算について

西日本電信電話株式会社

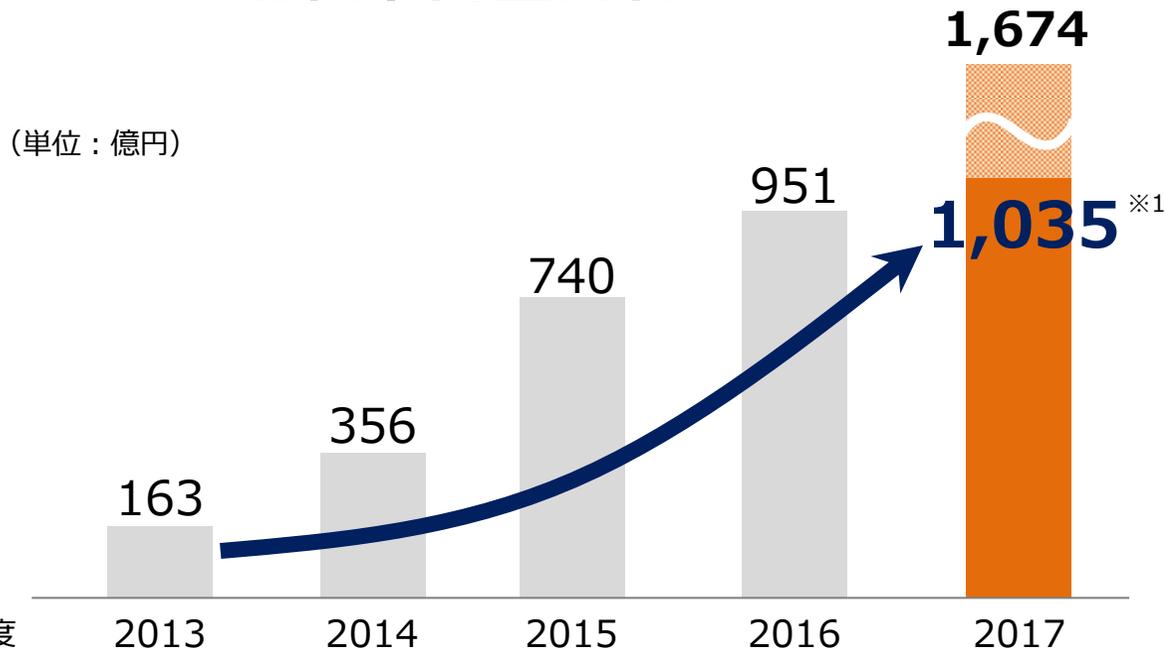
代表取締役社長

村尾 和俊

2017年度 決算概況

■ 営業利益〔国内基準：単体〕

- **4期連続増益**
- **2期連続最高益更新**

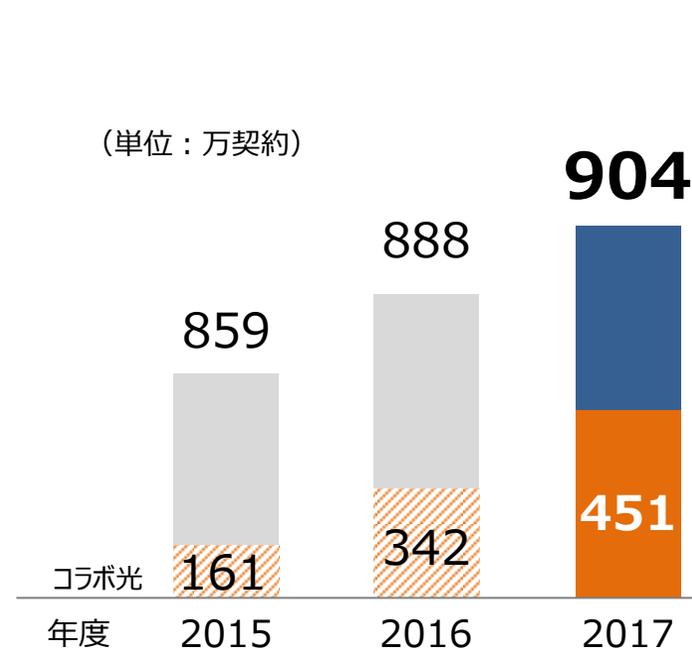


【参考】

〔当期純利益〕	187	139	724.2 (438) ^{※2}	597	724.3
〔設備投資〕	3,394	3,145	2,894	2,741	2,592

■ 光サービス契約数

- **900万契約突破**
- **コラボ光比率はほぼ半数**



【参考】

〔新規開通〕	120	121	123
〔コラボ比率〕	19%	39%	50%

※1 特別損失（638億円）を含む

※2 地方税相当の繰り延べ税金資産の計上を除く

2018年度 業績予想

項目	単位	2017年度 実績	2018年度 業績予想	対前年
営業収益	IFRS基準※1 (連結) 億円	14,940	14,540	▲400
営業利益		1,194	1,100	▲94
当期純利益※2		800	730	▲70
設備投資		2,810	2,700	▲110
光サービス 〔契約数〕	光サービス	904	924	+20
	コラボ光	451	546	+95※3

※1 IFRSに基づく2017年度実績は未監査の参考値であり、会計監査の結果により変更となる可能性があります。

※2 当社に帰属する当期純利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。

※3 フレッツ光からコラボ光への転用60万契約を含む数値。

重点ソリューションの営業展開

金融

自治体クラウド

防災

医療

教育(大学・小中高)

地域NW

- 大都市圏・大規模ユーザに対する営業力の強化（リソース集中）
- 府県域の重点ユーザへの営業力を継続的に確保
- 中小市場へ利益率の高い「セキュリティ商材」、「サポートサービス」の販売拡大

社会の課題解決に貢献するビジネス

- 商用化モデルの営業展開
- サービス化に向けた実証実験
- パートナー連携の拡大

LPWA福岡モデル

道路路面診断

水道・ガスのスマートメーター

河川水位監視

観光振興

介護

見守り

医療連携

(単位：契約)

新規開通数 **125万**

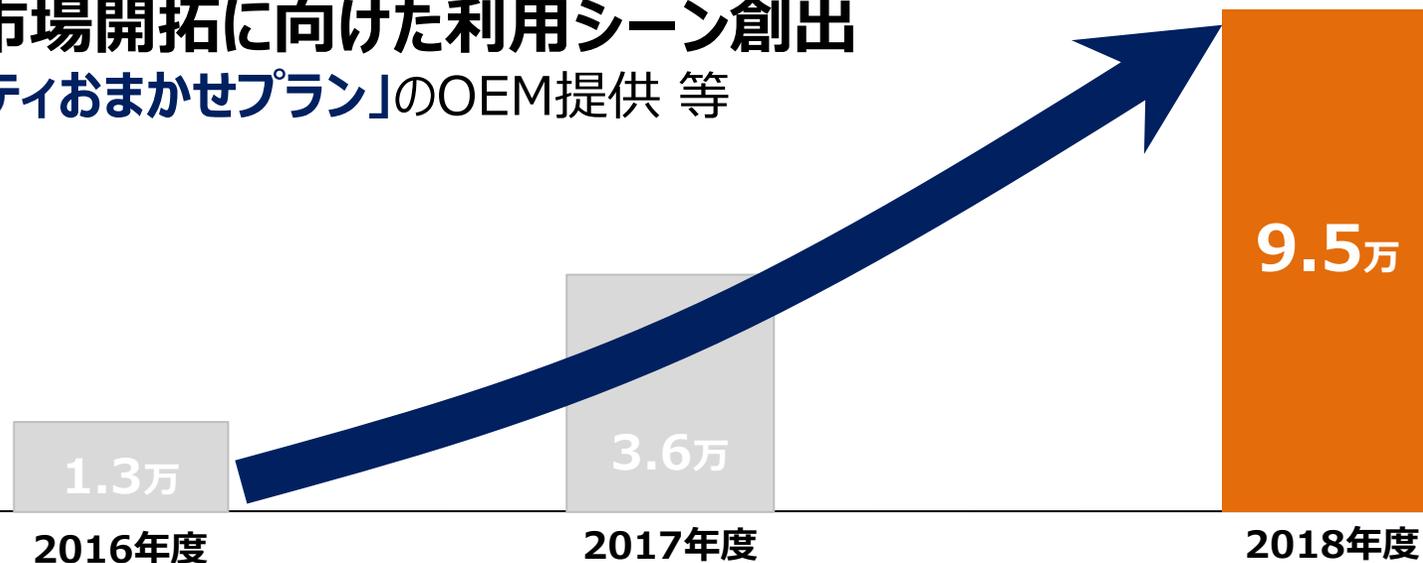
事業者と連携した更なる新規販売拡大

(再) コラボ光新規開通数 **95万**

異業種コラボ事業者の拡大

- ニーズが高い業種への更なる拡大
-例：SIer、不動産分野 etc
- 新たな市場開拓に向けた利用シーン創出
-「セキュリティおまかせプラン」のOEM提供 等

新規開通数の
拡大



〔 異業種コラボ事業者の新規開通数推移 〕

「働き方改革」と「競争力の強化」の実現

デジタル業務改革 (AI等の導入)

- **社内の250の業務が対象**
ex)コールセンタ、マーケティング、社内問い合わせ等
- **トライアルの結果を踏まえ本格導入**
-2017年度60件、2018年度以降190件

業務オペレーション の効率化

- **業務処理バックヤードコストの半減**
-営業、設備部門の業務集約・委託化
- **業務オペレーションの統一化**
-一元的なマネジメント・コントロールの推進
- **設備業務のスマートオペレーション化**
-リモート業務の拡大、オンサイト業務のマルチ化

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。